様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　6 月　1 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５２０６５２
研究課題名（和文）世界史における東アジアとアフリカ
―― 国際共同研究のための基盤形成
研究課題名（英文）East Asia and Africa in World History:
A Preliminary Study for International Research Projects

研究代表者
古川　哲史（FURUKAWA TETSUSHI）
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：９０４１０９７７

研究成果の概要（和文）：本研究は研究代表者が取り組んできた＜第二次世界大戦期までの日本－アフリカ関係史＞の研究を出発点に、対象地域を東アジア（主に中国、朝鮮半島、日本）とアフリカに設定し、世界史的な観点や枠組みを意識した取り組みである。とりわけ、19 世紀末から 20 世紀半ばの東アジアとアフリカの関係におけるいくつか重要な諸相を、世界史的な視点から明らかにすることを目的とした。それはまた、従来、アジア史やアフリカ史において、個別に扱われてきた諸相を繋ぐ接続性を見出す作業であり、その関係性についての歴史学および歴史哲学的考察となった。本研究では、個人研究を遂行するとともに、今後、この大きなテーマを国際的な規模で論じるための共同研究の可能性も探った。

研究成果の概要（英文）：This research project “East Asia and Africa in World History: A Preliminary Study for International Research Projects” examined some important features of relationship between East Asia (mainly China, Korea, and Japan) and Africa in world history.　This study primarily focused on those relations or connections from the late 19th century to the early 20th century and employed academic approaches of historical studies as well as those of historical philosophy. It also attempted to find ways to make this significant, but large topic project an international one in current global academia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	1,200,000	360,000	1,560,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・史学一般
キーワード：歴史理論、歴史哲学、世界史、関係史、日本、アジア、アフリカ、
アフリカ系ディアスポラ

１．研究開始当初の背景

現在、学界あるいは教育の場で、世界史の重要性が主張されている。当然、学術的には世界史にはアフリカ大陸の歴史も不可欠なものとして含まれる。しかしながら、＜国際化＞や＜グローバル化＞などの用語とともに論じられる世界史や国際関係史などでは、アジア、とくに東アジアとアフリカの関係はまだまだ未開拓な課題として残されている。（日本では近代以降の歴史学の制度的な問題もあり、近年までアフリカ史の研究はなかなか蓄積されてこなかったという問題もある。）

本研究課題は、以上のような研究代表者の問題意識のもとに立案された。そして、自身の将来的な研究課題の一つ＜世界史における東アジアとアフリカ､アフリカ系ディアスポラ＞（East Asia, Africa, and the African Diaspora in World History）にどう繋がるかを考えつつ、本研究を国際的な共同研究に発展させることを念頭に置きながら、まずは個人研究として研究活動を開始させた。

２．研究の目的

本研究は研究代表者が現在まで取り組んできた＜第二次世界大戦期までの日本－アフリカ関係史＞の研究成果を出発点とした。そして、対象地域を東アジア（主に中国、朝鮮半島、日本）にひろげて、対象期間を 19 世紀末から 20 世紀半ばとし、いくつかの重要な事例や諸相を通して、東アジアとアフリカとの関係を世界史的な視点から明らかにすることを目的とした。

本研究では、対象時期の関係史の事例に焦点を当てた実証的および理論的な個人研究を遂行するとともに、今後、この大きなテーマを国際的な規模で論じるための共同研究の可能性を探ることも目的とした。

３．研究の方法

研究活動の最初の段階として、当該テーマの先行研究の調査を開始した。とりわけ、本研究の基軸のひとつとしたのは、研究代表者が今まで取り組んできた＜日本－アフリカ関係史＞の研究である。

＜日本－アフリカ関係史＞の研究は、日本においてはアフリカ史学の乏しさもあり、先行研究はまだ少ない。本研究代表者は今まで、アフリカ諸国や欧米などの研究者による関連研究も含めて、その既往の研究概観や意義・問題点の分析をいくつかの機会で行ってきた。（例えば、拙稿「2007 年の歴史学界：回顧と展望――アフリカ」、『史学雑誌』117 編第 5 号、史学会、2008 年、同「日本－アフリカ交渉史の諸相を考える――いくつかの研究課題と展望」、『アフリカ研究』72 号、日本アフリカ学会、2008 年、同「書評：藤田みどり『アフリカ「発見」』岩波書店、2005 年」、『アフリカ研究』68 号、2006 年、等である。）

本研究活動では、それら＜日本－アフリカ関係史＞の先行研究の分析とともに、対象地域を東アジアにひろげて、関連の先行研究の調査や収集、分析などを行った。とりわけ、朝鮮半島（大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国を含む）や中国のアフリカとの関係史に関する文献の探索に努めた。また、先行研究で使われている史・資料の再検証作業も試みた。

そうした作業とともに、日本内外での関連史・資料の探索や入手に努めた。アフリカ系アメリカやアフリカ系ディアスポラ研究の進展するアメリカ合衆国でも、現地での資料調査をおこなった。インターネット、メール等による資料入手や情報収集も遂行した。（本研究の対象時期だけでなく、近年の中国

―アフリカ、韓国―アフリカの政治・経済関係の急速な展開に関わる文献や情報なども含んだ。）

以上のような、先行研究の調査、分析、そして新たな関連資料収集をもとに、いくつかの事例に焦点を当てた実証的および理論的な個人研究を遂行した。そして、予備的考察も含めた研究成果をまとめ、公表を試みた。

４．研究成果

本研究は研究課題名や研究目的に記載・説明されているように、国際的な研究のための基礎的、準備的研究活動の性格を持つものであった。したがって、本研究期間に公表された成果は次項のとおりであるが、より本格的な学術成果は、近日刊行の共著や論文も含めて、今後の研究継続作業の中で公にされる。とくに、学術集会での発表、学術誌での論文公刊、さらには学術書の出版などで示されることになる。

また、本研究期間の成果としては、現在の国際的あるいはグローバルなアカデミズムにおける意義は言うまでもなく、国際政治や経済、社会、文化交流といった分野の現場においても、本テーマ＜世界史における東アジアとアフリカ＞は重要な意味を持つことが再認識されたことも挙げられる。

さらには、本研究課題は日本の教育、とりわけ学校教育のなかで、現在しばしば日本と世界との繋がりの必要性が議論されている高等学校「世界史」「日本史」と直接関わる内容である。それゆえ、日本の高校教育現場を意識した関連論考〔その他②〕も刊行した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計１件）

① ジョナサン・アール著、<u>古川哲史</u>・朴珣英訳『地図でみるアフリカ系アメリカ人の歴史――大西洋奴隷貿易から 20 世紀まで』、明石書店（東京）、2011 年 3 月、144 ページ。

＊本書はアフリカ系アメリカ人の歴史と文化を地図や写真、グラフなどとともに示した歴史地図 Jonathan Earle, *The Routledge Atlas of African American History* (New York and London: Routledge, 2000) の翻訳である。朴珣英との全頁共訳である。

本書の中心的課題はアフリカ系ディアスポラを生じさせた大西洋奴隷貿易や奴隷制であることに注目し、日本（人）とアフリカ系アメリカ世界やアフリカ系ディアスポラ世界の歴史的関係なども意識して、翻訳・刊行したもの。

〔その他〕（計３件）

① <u>Furukawa Tetsushi</u>（古川哲史） "Book Review: Ishikawa Hiroki, *The Rise and Fall of Solomonid Ethiopia: Reconsideration of Its History after the Oromo Migration*," *Nilo-Ethiopian Studies*, No.17, March 2012, pp.64-66.

＊本稿は、日本ナイル・エチオピア学会 (Japan Association for Nilo-Ethiopian Studies) の英文学術誌での石川博樹『ソロモン朝エチオピア王国の興亡――オロモ進出後の王国史の再検討』（山川出版社、2009年）の書評である。

本稿では、この課程博士論文に基づく学術書が、長い歴史を持つエチオピア王国史の中でソロモン朝（1270年－1769年）

に焦点を当て、皇帝の年代記などゲエズ語（古典エチオピア語）の史料、キリスト教布教に訪れたイエズス会の文書、イギリスはじめヨーロッパの資料などを精緻に読み込み、エチオピア史研究に新たな貢献をしたと評した。（本誌は英文学術誌であるため、本書評では日本におけるアフリカ史研究の流れと、その中での該当書の位置づけについても短く言及。）

② 古川哲史「アフリカ史――精神と学界の脱植民地化に向けて」、『歴史と地理』651号（「世界史の研究」号）、山川出版社、2012年2月、32－35ページ。
＊日本の歴史学の流れとその特色や問題点に触れながら、日本語で読むことのできるアフリカ史の代表的な概説書や書物を短評・紹介。日本の歴史学界とともに、高校の歴史教育現場を意識したもの。（大学等の歴史学に関わる組織の従来の区分や制度、国民国家や西欧―非西欧といった枠組みを、より相対化する重要性を述べたものでもある。）

③ 本研究は科学研究費助成事業採択により研究代表者の所属する大学の研究所（大谷大学真宗総合研究所）の研究プロジェクトともなり、同研究所の「一般研究」として研究活動への便宜が図られた。それゆえ、研究所刊行の『研究所報』に、以下のように本研究の目的や研究経過・成果を公表した。
（『研究所報』は以下の大学ホームページにも掲載されている。）
＊大谷大学真宗総合研究所『研究所報』
http://www.otani.ac.jp/cri/nab3mq000001jvxk.html

古川哲史「世界史における東アジアとアフリカ―― 国際共同研究のための基盤形成」（2011年度「一般研究」研究結果概要）、『研究所報』61号、大谷大学真宗総合研究所、2012年10月、23－24ページ。

古川哲史「世界史における東アジアとアフリカ―― 国際共同研究のための基盤形成」（2011年度「一般研究」研究目的紹介）、『研究所報』60号、大谷大学真宗総合研究所、2012年5月、15ページ。

古川哲史「世界史における東アジアとアフリカ―― 国際共同研究のための基盤形成」（2010年度「一般研究」研究結果概要）、『研究所報』59号、大谷大学真宗総合研究所、2011年10月、22－23ページ。

６．研究組織
(1)研究代表者
古川　哲史（FURUKAWA TETSUSHI）
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：90410977